

舟運で栄えた在郷町 小須戸並ツ 須並マッ 戸みッ マッ

25m 50m 125m



町屋の内部は「薩摩屋」を除き非公開です。散策の際は、町が住民の方々の生活の場であることを忘れずに、住民の方々のプライバシーに十分配慮下さい。

町並みと合わせて 楽しみたい 「在郷町 小須戸」

小須戸町通り周辺は、町並みが残るだけでなく、旧小須戸町の中心商店街でもあります。町並み散策と合わせての商店街巡りもおおすすめです。

信濃川と小須戸橋
現在の小須戸橋は、かつての渡し場付近に架けられました。橋近くの堤防の上からは、信濃川越しに新緑の山並みや川見が望めます。マツコッポ

六斎市
蒲原平野の在郷町では、月に六度、六斎市が開かれます。小須戸での市が始まりは宝永年間(1700年頃)とされ、現在は毎月32.8の付日(三日月)に開かれます。マツコッポ

凡例

- 町屋(薩摩屋を除き非公開)
- 散策コース
- 駐車場
- その他の歴史的建造物
- おすすめ撮影ポイント
- トイレ
- 水路があったところ
- 町境界線、町名及び旧町名

おすすめ散策コース (1時間30分程度)

- 「鼻隠し」のある町並み
- 東蔵小路・西藏小路
- 伴六殿小路
- 小道沿いの長屋
- 長屋門の小道
- 上稻荷小路
- 馬頭観音
- 分審小路
- 下中野小路

町屋ギャラリー薩摩屋

空き店舗であった町屋を改装し、ギャラリーとして活用しています。町屋の内部見学、まち歩き時の休憩所としても利用可能です。

【開館日】土・日・祝日

小須戸橋の機織り工場跡

小須戸地区はかつて機織で栄えました。地区内には、明かり通りのこぎり屋根が特徴的な機織り工場跡が残り、歴史の名残を偲べます。

町屋とは？

町屋とは、商人・職人の伝統的な住居を言い、江戸時代に入って全国に普及しました。

町屋の一般的な特徴

- 敷地が奥に細長い
- 隣家と接して建物が建つ
- 道路に接して建物が建つ
- 土間に沿って1列に部屋が並んでいる

町屋の特徴は全国共通と言えますが、外観や内部の間取りなどは地域によって異なっており、これが町屋の面白さと言えます。

妻入り・平入り

妻入り・平入りの割合はその町により様々です。小須戸は妻入りと平入りが混在しており、妻入りの方がやや多い町並みとなっています。

小須戸の町屋の外観

雁木を設け、軒先には鼻隠しが付き、2階部分はガラス戸と戸袋、1階部分は格子と大戸からなるものが一般的であると考えられます。

ガラス(付き)雨戸(アマト)の上部ないし全てにガラスを用いており、東北地方の外壁の開口部に使われる、や北陸地方によく見られる建具で、一本引きの敷居の上です。雨戸デザインも町屋を溶かして開閉します。雨戸により様々あります。

戸袋(トブクロ) 雨戸を収納する為に外壁に設けられます。かつては大工の腕の見せ所であり、各家でデザインに工夫を凝らしました。

大戸(オオド) 町屋の出入口の大きな板戸を言い、開閉方式は、「片引き」内引き「まくり上げ」などがあります。大戸には、高さや幅が半分ほどの「潜り戸」が付いており、大戸を閉じた状態での出入の際に利用します。



小須戸の町並みの価値

変らぬ町屋の骨格

明治の大火以降、町の姿を一変するような災害や戦災に見舞われていないため、江戸時代からの伝統的な敷地割や道路網などが現在も良く残っています。

質の高い町屋

単に古いだけでなく、それぞれの建築の質が高く、立派であるといえます。それは当時良い材料や技術があり、舟運などによる経済的な繁栄があったからであるといえます。

在郷町としての環境

周辺に田園と信濃川があり、そこに町が広がっているという「在郷町」としての環境全体を感じることが現在も思っています。

蒲原平野を代表する町並み

蒲原平野には、多くの在郷町がありますが、小須戸はそれを代表する町並みであると評価することができます。

道の両側に残る町屋

道の両側に町屋が集中して残っていることが大変貴重であり全国的に見ても珍しいものです。

小須戸の町屋の間取りと特徴

小須戸の町屋の間取りは表の通りからミセ、チャノマ、イマ(ネズ)、ナカニワと続いており、表の通りに面した2階がザシキとなつていきます。

チャノマには神棚と仏壇が配置されており、上部は吹抜けとなっています。ドマの上部はザシキとウラニカイをつつくり廊下となっている町屋がよく見られます。

庭は、ほかの町と比べて広く、「ナカニワ」と呼ばれていることからそのことがわかります。

また、ドマが途中で折れ曲がっているのも特徴のひとつです。ドマが折れ曲がった部分は、台所やお風呂場などとして利用されていることが多いです。

